

9月
議会定例会今年も「お買い得商品券」助成
「災害復旧事業関係」を報告

9月議会定例会が、9月11日から20日までの7日間にわたり開催され、教育委員の選任案、平成25年度各会計補正予算案などの11議案と報告2件の計13件が提案、可決されたほか、24年度歳入歳出決算について認定されました。

行政
報告◆8月9日の豪雨に伴う災害
の被害状況について

本県を襲った集中豪雨は秋田地方気象台によりまずと「これまでに経験のないような大雨」とし最大限の警戒を呼び掛けるものとなり本町でも午前4時から7時までの総雨量が109・00mm（アメダス）を記録し、大きな被害が発生しま

した。特に県道西目屋二ツ井線は真名子ゲートから青森県境にかけて地滑りや土砂崩れ等で通行止め、小岳に向かう大滝林道なども土砂崩れ等の被害が多発し通行止めとなり早期復旧は困難な状況で観光産業への影響は避けられない見通しです。道路・農業関係を中心に約1億2千500万円の被害と推計されています。

幸い人的被害はありませんでしたが、真名子地区で自宅近くの河川が増水し2世帯が近くの公共施設に自主避難したほか出戸小比内地区では住家1棟、非住家1棟の床下浸水の被害がありました。

農地や農業用施設につきましては用水の確保等、緊急を要する災害は町の単独事業により対応しておりますが、今後は被害箇所を精査し、県や国の復旧事業等により復旧に対応していきます。

また、小岳登山ルート、駒ヶ岳黒石沢登山ルート、岳岱自然観察教育林、太良峡などへの立ち入りができないことから、町としては米代西部森林管理署にお願い

しながら駒ヶ岳樺岱登山ルートの確保や高山周辺を散策コースとして観光客に紹介するなど可能な限り町の観光スポットをPRしていきたいと考えています。

観光やナ事業は5年目になります。藤琴川も粕毛川も濁りが酷く関係団体と協議の結果、大量の土砂崩れにより餌場となる水ゴケやアユ自体が流され、魚体に大量の泥が入ったと推測され、観光アユのイメージを悪くすることが危惧されるため、今年度は事業を見送ることとしました。

◆水稲の作柄・農林業関係事
業の進捗について

作柄は平年並が予想されますが、JAの稲作部会展示圃の生育調査では、1㎡当たりの穂数、1穂の着粒数も平年を下回っています。1㎡当たりの着粒数は、2万7千400粒で、収量は平年をやや下回ることになりました。

JAあきた白神カントリエレベーターの町内利用状況は、28戸の農家で62・8haの申込となっており、作付け面積の12・5%にあたります。

今年の米の概算払金額は、早場の米価

格が昨年を2割ほど下回っていることから昨年を下回るものと思われます。

一方、野菜の動向ですが、春先の山ウドは単価が昨年を下回りましたが、生産量・販売額とも計画を上回りました。

ネギは天候の影響で生育が遅れたほか高温による腐敗病なども発生し、7月中の出荷はありませんでした。

トマトや小ナスについても長雨の影響により数量、販売額ともに計画を下回っています。

4年目を迎えたリンドウは、248,100本の出荷で販売額は、13,300千円、平均単価53・6円と昨年の販売額を3,500千円程上回っています。

白神ラム生産拡大事業は、北海道焼尻島より種羊2頭、繁殖用50頭、肥育用25頭を導入しています。繁殖種羊は110頭となり、ラム肉として60頭、ホゲツト用として34頭の出荷を予定しています。ラム肉は首都圏へ40頭、県内外での賞味会用として20頭の出荷が決まっています。

ニホンザルによる農作物の被害防止について捕獲頭数5頭と昨年を下回っています。檻の設置を増やすなどしていますが、出没に対して捕獲数が減少しているため新たな対策も必要であると考えています。

ツキノワグマについても出没箇所が多く居住地にも出没しているため檻を適宜に設置して4頭を捕獲しましたが、出没が続いていますので看板を設置するなどして注意を呼びかけています。